

第4学年 総合的な学習の時間 実践報告

王寺町立王寺北義務教育学校

教諭 藏前 拓也

1. 単元名 「だるまさんがころんだ!ーだるま発祥の地（達磨寺）わたしたちのまち王寺町ー」

2. 単元の目標

- 達磨寺には、飢人伝説や問答石など聖徳太子にまつわる逸話や遺跡があることを理解し、それらに関わる事柄の魅力や価値を考え、他者に伝わるようにまとめることができる。 (知識及び技能)
- 達磨寺について見たり聞いたり、調べる活動を通して課題を見だし、課題解決に必要な情報を選択し、考えたことを適切に表現することができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 地域にゆかりのある達磨寺やそれに関わる文化や歴史について関心をもち、意欲的に学習に取り組むとともに、地域の遺産を受け継いでいくために自分ができることを考え行動することができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

奈良県王寺町は、聖徳太子にまつわる歴史と豊かな自然が息づくまちで、さまざまな文化や伝統が交差する場所であり、「だるま」の発祥地とされている『達磨寺』がある。

『達磨寺』は「日本書紀」によると、推古天皇21年(613年)12月、聖徳太子が道のほとりに伏せていた飢人を見つけ、飲み物と食べ物に加えて衣服を与えて助けたが飢人は亡くなった。これを悲しんだ聖徳太子は、飢人の墓をつくって厚く葬ったが、数日後に墓を確認すると、埋葬したはずの飢人の遺体がなくなっていた。この飢人が、のちに達磨大師の化身と考えられるようになり、『達磨寺』が生まれたとされている。聖徳太子と達磨大師の出会いから始まった『達磨寺』は両者との関りが深く、本堂の下には達磨寺3号墳とよばれる古墳時代後期の円墳があり、聖徳太子が飢人のために作ったお墓、すなわち達磨大師のお墓とされ、鎌倉時代にその上にお堂が建てられて、本尊として堂内に聖徳太子像と達磨大師像が安置されている。また、境内には二人が出会ったときに歌を詠み交わした場所であると伝えられている問答石や雪丸像(聖徳太子の愛犬・王寺町の公式マスコットキャラクター)がある。

『だるまさんがころんだ』の起源は、はっきりとは分かっていないが、江戸時代に「起き上がり小法師」という玩具が達磨大師をモチーフに変化し、子どもたちの間で人気が出たことがルーツとされている。その後、明治時代以降に遊びとして広まった。地域や年代によって、鬼のかけ声(セリフ)や数え方などが異なり、海外にも類似した遊びが存在している。また、王寺町では『達磨寺』で『だるまさんがころんだ』の全国大会が開催されるなど、地域活性化のイベントとしても活用されている。

これらの『達磨寺』や『だるまさんがころんだ』は校区内の地域にゆかりがある題材(エピソード)であるが、教材としてあまり取り扱われていることはない。この学習を通してこれらに触れることで、改めて自分たちが住んでいる王寺町の魅力や価値を発見し、地域に対して愛着や誇りをもてる教材として活用したい。

(2) 児童観

児童たちは、2年生時の「まちたんけん」(生活科)や3年時の「校区たんけん」(社会科)等の学習において、『達磨寺』へ行ったことがあり、境内を散策したり校区での位置を調べたりという経験

はしている。しかし、雪丸像の印象が強く、「だるま発祥の地」としての内容を深く掘り下げて学習する機会はなかった。また、単元前に実施したアンケート調査によると、『だるまさんがころんだ』の昔遊びを経験している児童は少なかった。

※(以下、実践の考察内のアンケート結果参照)

(3) 指導観

この単元の指導における導入では、唐突に『だるまさんがころんだ』を児童たちと一斉にやってみることから始める。楽しみながら学習に参加することで、教材との出会いを大切にしたいと考えている。その後、『達磨寺』や『だるまさんがころんだ』にまつわる事柄を出させてふり返り、学習課題や計画を設定させる。そして、「聖徳太子」に関わる伝説やエピソードを紹介し、テレビやラジオ、インターネット等がない時代から、どのように地域に受け継がれてきたのかということを示す。また、児童が不思議に感じたり、疑問に思ったりした事柄を丁寧に受け止めて取り扱うようにしたい。

次に単元の間では、現地学習を実施し、児童が解決したい課題内容に応じて、地域のボランティアガイド、専門機関の学芸員や研究員等にゲストティーチャーとして協力を依頼する。児童らが直面する学習課題に対して、自分たちだけでは知り得ない情報やお話を聞き、より深く教材の魅力や価値について考えさせたい。

単元の終わりには、学習を通して気づいた課題に対して、自分たちにできることは何かを考えさせ、行動化を促せるようにしたい。例えば、地域の住民として知っているつもりだったけれど、知らなかったことがあったことを共通の課題と取り上げ、「自分たちが調べて感じた魅力や価値はまわりの人には伝わっているのだろうか」と問う。そうすることで、学習課題を再度自分事ととらえ、どのようにすれば、地域の遺産といえる『達磨寺』や『だるまさんがころんだ』にまつわる事柄を受け継いでいけるかを考え、課題に対して主体的に行動できる態度を養うように展開をしていく。

また、本実践の学習内容をより充実させられるよう、総合的な学習の時間と合わせて、体育科や国語科とも連動させてカリキュラム・マネジメントを行い、学習指導計画を立てる。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

【多様性】:『達磨寺』の境内には、問答石・雪丸像・古墳など、地域の歴史や文化に関わるさまざまな事柄がある。加えて『だるまさんがころんだ』には、独特の響きやリズムがあり、昔から伝わる遊びとして国や地域によって、さまざまなやり方が存在する。また、『だるまさんがころんだ』の運動には、健康効果が期待できることに気づくことができる。

【連携性】:地域にゆかりのある『達磨寺』や『だるまさんがころんだ』を広めるために、身近なところから自分たちができることを考え、協力して活動を進めることができる。

・本学習で育てたいESDの視点の資質・能力

【コミュニケーションを行う力】:まとめた学習の成果を他者と交流したり、発信したりする。

【他者と協力する態度】:課題に対してなかまと協力し、目標を達成する。

・本学習で変容を促すESDの価値観

【人権・文化を尊重する】：地域にゆかりのある『達磨寺』や『だるまさんがころんだ』を調べる学習を通して、王寺町の歴史や文化に触れ、地域の魅力や価値を再発見する。

・達成が期待されるSDGs



3：健康・福祉

11：住み続けられるまちづくりを

(5) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①達磨寺には、飢人伝説や問答石など聖徳太子にまつわる逸話や遺跡があることを理解している。 ②達磨寺について、必要な情報を調べたり、まとめたりしている。	①資料をもとに課題を見だし、解決のための方策を考えている。 ②達磨寺の魅力や価値を広めるために、必要な努力や工夫を考え、適切に表現している。	①地域にゆかりのある達磨寺に関心をもち、地域の遺産として大切にしようとしている。 ②達磨寺に関わる文化や歴史を受け継いでいくために、自分のできることを考え、主体的に活動しようとしている。

(6) 単元の指導計画 (全15時間)

次 段階	主な学習活動	学習への支援	評価
一 知る 見 つ め る	<p>○「だるまさんがころんだ」をやってみよう。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だるまさんがころんだや昔遊びなどに触れ、それらについて話し合う。 ・だるまやだるまさんがころんだについて、自分が知っていることを発表する。(だるまクイズ) <p>(子)：「校区にある達磨寺にひみつがあるかも」 「どのくらい前からの遊びなのかな」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールや手順を説明し、安全に気をつけて取り組ませる。(学級 or 学年単位で) ・スライドを使って、既習の事柄(校区たんけん等)をふり返り、興味・関心が高まるようにする。 	イー①
	<p>なぜ「だるまさんがころんだ」は昔から親しまれてきたのだろうか。 どうして王寺町は、だるま発祥の地と言われているのだろうか。</p>		
	 		
二 調 べ る	<p>「だるまさんがころんだ」にはどのような歴史があるのだろうか。 聖徳太子の伝説や逸話とは、どのような関りがあるのだろうか。</p>		

どこにゆかりがあるのだろうか？

- 達磨寺に行ってみよう。②～④
- ・達磨寺を見学し、王寺観光ボランティアの方からお話を聞く。
- ・発見したことや疑問に思ったことをメモしておく。(フィールドワーク)



だ～るまさんがねころんだ!?

問答石なんて、知らなかった!

「達磨寺」が昔から残されてきたのはなぜだろう。

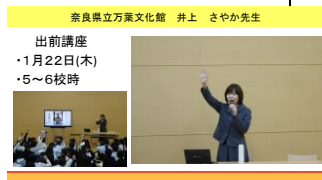
- 万葉集とのつながりや達磨寺の歴史について調べよう。⑤⑥⑦⑧
- ・研究員の方々からのお話を聞く。(井上さやかさん/奈良県立万葉文化館)(岡島永昌さん/帝塚山大学)
- ・万葉集に載っている聖徳太子の歌について学ぶ。
- ・達磨寺やだるまさんがころんだについての歴史的なルーツを探る。

- ・見学をしたりお話を聞いたりして、疑問に思ったことや発見したことをメモさせる。
- ・「だるま発祥の地」のゆかりになることが分かる事柄について考えさせる。(達磨大師と聖徳太子)(問答石と飢人伝説) など

アー②

- ・お話を聞いて、疑問に思ったことや発見したことをメモさせる。

アー①



三
ま
と
め
る

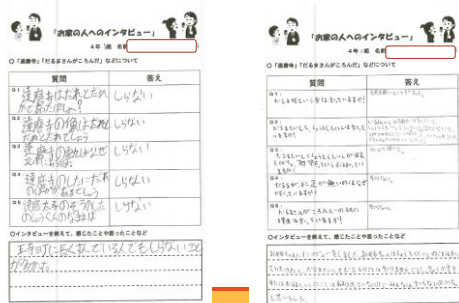
ふ
か
め
る

「達磨寺」「だるまさんがころんだ」の魅力って何だろう。

- 調べたことについてまとめよう。⑨⑩
- ・アンケート調査の実施 等(保護者や児童生徒)
- ・分かったことや考えたことについてまとめ、話し合う。(意見交流)
- ・自分たちが考えた「だるまさんだころんだ」や「達磨寺」等の魅力や価値、誇れるところについてまとめる。

- ・クロームブック(オクリンク)やワークシートを活用し、まとめさせる。

ウー①
イー②



四
ひろ
げ
る

「達磨寺」「だるまさんがころんだ」の魅力を伝えるために、自分たちにできることって何だろう。

○「だるまさんがころんだ」を広めよう。⑪～⑮

★だるまプロジェクト発進！

【他者や地域に発進】

- ・だるまマーケットへの参加
- ・〇〇などのデザイン
- ・パンフレット、動画の作成
- ・グッズ企画(だるま&雪丸)
- ・福祉施設とのコラボ
- ・だるまフェスティバルの開催
(発表会や模擬大会の実施)

- ・達磨寺の行事でガイド
- ・役場や公民館に学習成果物を展示 等

【ボランティアガイドの会の方へのお礼の会】



先生たちもだるまころに
出場したことを紹介！



- 有志児童：30名
- 引率：2名
- 新聞&リーフレットの配布
- クイズ&シールラリー
- 解説ガイド



【北義務だるまころ選手権大会の開催】(体育科)

ガイドして終わりではなく、深めた学びの
成果を聞いてよかった。涙が出そうなくら
いうれしいです。感動しました！

だるまさんが
ころんだ！



最後にサプライズで、王寺町のマス
コットキャラクター雪丸が登場！



【他教科との関連】

体育科/体づくり運動 (全5時間)	国語科/伝統的な言語文化(全3時間)
○リズムに合わせて体のバランスをとろう①	○百人一首や万葉集に親しもう①
○リズムに合わせて体を移動させよう②	○お気に入りの一首を紹介しよう②
○リズムに合わせて動きを組み合わせよう③	○友だちと歌を詠み合おう(句会)③
○だるまころ選手権大会④⑤	

(7) 実践の考察

○成果

(1) つながりを意識した学びの場を提供

本実践では、学校、行政、公的教育機関、地域の方々などとの関わりを意識して学習を進めることができた。例えば、王寺観光ボランティアガイドの方々にお世話になり、現地学習を行った。加えて、帝塚山大学の先生、県立万葉文化館の研究員の方をゲストティーチャーとして迎え、出前講座を行った。児童らが自分たちだけでは分からない事柄について、専門の方から直接お話を聞くことで、課題解決につなげることができた。また、『達磨寺』『だるまさんがころんだ』を広めるために作成した新聞とリーフレットを地域の方が達磨寺で主催している「だるまマーケット」内で、ブースを出店し、一般のお客さんに配布した。そして、クイズラリーを催し、境内のガイドにも挑戦した。

学習の終末には、「王寺町観光ボランティアガイドの会の方々へのお礼の会」を開催し、これまでの学習の成果を発表し、手作りのお礼の品をプレゼントした。さらに同日、「北義務だるころ選手権大会」を開催し、体を使って、『だるまさんがころんだ』の昔遊びに親しんだ。この際、偶然出前講座でお世話になった先生が、「全国だるまさんがころんだ選手権大会」の実行員でもあることが分かり、鬼役として再び児童らと会うことができた。こうすることで、児童らに「学校での学びは、地域や社会とつながっている」と実感させることができ、SDGs 3と11の目標にも近づけることができたのではないかと考える。

(2) 単元前後のアンケートの結果から

各質問数値の高まり

単元前後で6つの質問を設定し、アンケートを実施したところ、以下の結果が得られた。

【学習についてのアンケート】		A	B	C	D
単元前：10月27日29人/単元後：2月20日26人実施		前/後			
1	だるまさんがころんだという遊びをしたことがありますか。	0/26	1/0	3/0	25/0
2	学校の学習以外で達磨寺に行ったことがありますか。	2/21	3/2	1/1	23/2
3	自分が住んでいる王寺町は好きですか。	22/24	3/2	3/0	1/0
4	地域のために、何かできることがあれば、したいと思いませんか。	19/21	8/3	0/0	2/0

A：そう思う B：どちらかといえばそう思う

C：どちらかといえばそう思わない D：そう思わない

【記述質問】		前	後
5	王寺町の自慢をしたらどんなことを自慢しますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ない、分からない多数 ・交通の便 ・雪丸 ・お店が多い 等	<ul style="list-style-type: none"> ・達磨寺 ・聖徳太子と達磨大師 ・だるまさんがころんだ ・雪丸 ・だるまマーケット ・SL、鉄道 ・明神山 ・やさしい人が多い 等

6	自分たちが住んでいる王寺町について、知っていることを教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・ない、分からない多数 ・いなか ・人がやさしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・達磨寺のゆらい ・町のれきし ・聖徳太子と達磨大師 ・だるまさんがころんだ ・やさしい人が多い多数 ・やさしい町
---	------------------------------------	--	--

各質問の単元前後を比べると、単元後で肯定的に回答した児童の数が増えた。特に、質問2では学校の学習以外で、「だるまマーケット」「除夜の鐘」「節分祭」「家族とガイドしてもらった」などで『達磨寺』に行ったことが分かった。加えて、質問3と質問4では、自分たちが住んでいる地域について、好意的に捉えることができるようになった児童の数が増えた。これらは、地域にゆかりのある教材について、自分たちが知っているつもりだったけど、知らなかったことに着目して調べ学習を行ったからではないかと考える。例えば、お家の人(保護者)へインタビューする活動を通して、地元の人でも知らない人がいることが分かり、それを課題ととらえた。その後、「達磨寺」「だるまさんがころんだ」を広めるために自分たちで作成した各学習成果物を他者に発信したり、提供したりすることで、行動化へ移すことができたからであると考え。

記述式の質問5と6では、無記入を含めた「ない、分からない」等の記述が減少した。主な記述には、『達磨寺』『だるまさんがころんだ』に関わるものが増え、その他の王寺町の文化や歴史に触れるものが多かった。さらに、意外だったのが、「やさしい町」「やさしい人が多い」という記述が多数見受けられた。これらは、単元を通して、地域にゆかりのある教材を扱い、その中で、ゲストティーチャーと再会させしたり、地域の方々と触れ合ったりする機会が何度もあったことからその効果ととらえ、このような思いを抱いた児童が多かったのではないかと推察している。そして、改めて王寺町にゆかりのあるものの価値や魅力を再発するきっかけになり、地域に対して愛着や誇りを感じる態度を育むことができたのではないかと考える。

●課題

実践の考察では、「ひろげる」の段階で、児童らがどのように行動化へうつすことができたのかを見取る材料が十分でなかった。その為、アンケートの分析で留まっており、細かく分析するところまでは至っていない。また、この実践を一過性のものでなく、義務教育学校として9年間を見通し、前期課程から後期課程への接続を意識し、学校として継続したものにしていかなければならないと考えている。これらのことを含めて今後の実践課題とし、これからの評価や分析方法の構築を目指していきたい。

【メディア取材関連】

- ・テレビ朝日：「ナニコレ珍百景」/2月8日(日)18:56放送/全国だるころ選手権大会決勝
- ・奈良テレビ放送：「ゆうドキッ!」/2月20日(金)17:30放送/北義務だるころ選手権大会
- ・朝日新聞：朝刊「奈良版」/2月22日(日)掲載/王寺観光ボランティアガイドの方々へのお礼の会
- ・奈良新聞：「奈良のできごと」/2月中掲載予定/北義務だるころ選手権大会